

第3回中間報告書

2026年1月19日~2026年9月4日

冬学期第1週~第12週、春学期(修士論文執筆期間)/
Winter Term, week1-week12, Spring Term (Dissertation)

国際ロータリー第2710地区
2025-2026地区補助金奨学生
阿部 吉晟

1. 報告書提出日：2026年9月30日

2. 基本情報

氏名：阿部吉晟

派遣クラブ・カウンセラー：広島西ロータリークラブ 石山 成之 様

教育機関：London School of Economics and Political Science (LSE)

専攻分野：MSc Development Management (Applied Development Economics)

3. 学業面での成果

冬学期に受講した授業(4科目)と修士論文に関して報告いたします。

【DV410】 Research Design and Dissertation International Development 2025/26

：国際開発における研究デザインおよび修士論文の書き方

- 仮テーマを提出した後は、自身で研究を進めることに時間を割きました。修士論文では、途上国のインフラ事業における官民連携パートナーシップ(PPP)を扱いました。PPPとは、政府系機関と民間企業がお互いの強み・弱みを補い合い、リスクを分担するパートナーシップのことです。特に道路や水道などのインフラ事業で多く採用されており、長期プロジェクトのリスクを官民で分担する仕組みとして機能しています。私の研究では、民間企業の財務特性や経営特性がPPPへの出資にどのように寄与するのかを検証しました。言い換えれば、途上国というリスクの高い環境において、営利を目的とする企業がPPPに参加するインセンティブは何かを明らかにしようとするものです。分析にあたっては、先行研究から理論的枠組みを整理して本研究の位置づけを明確にした上で、世界銀行のデータと出資企業の財務諸表データを用いました。検証の結果、独立系企業では収益性が高いほど民間出資率が高くなる一方、グループ系企業では収益性が高いほど民間出資率が低くなることが分かりました。この結果は、途上国のインフラ整備が今後も進む中で、官民連携の設計を再考する一つの手がかりになると考えています。

【DV443】 Development Management Consultancy Project 2025/26

：開発現場におけるコンサルタントプロジェクト

- 引き続き、フェアトレード・インターナショナルとのプロジェクトを進めておりました。これまではクライアントからいただいたデータ(コーヒーやバナナなどを生産する小規模農家の資金用途など)のみを使って分析を行っていましたが、世界銀行が発表している GDP や教育水準などのデータも結合し分析を深めました。授業で学んだプログラミング言語(R)でのデータ分析を応用することは非常に楽しく、また、実際のデータを処理することでしか経験できない苦労も感じる事ができ、貴重な経験となりました。分析結果をまとめた最終レポートを学期末に提出し、Outstanding Distinction(秀)の成績を収めることができました。同時期に報告をまとめたプレゼンテーションでも Distinction(優)を取得し、総じて納得のいく結果を得ることができました。

【DV464】 Development and Democracy 2025/26

：開発と民主主義

- 民主主義が経済発展とどのような関係があるのかを12週にわたって学びます。現在は日本を含む多くの先進国で民主主義の形態が取られていますが、そもそも民主主義は本当に経済発展に貢献するのか、はたまた独裁政治や君主制は経済発展にどのように寄与しうるのかを問い直します。これまでの歴史や途上国の事例を通じて、かなりニッチな領域でしたが深く学ぶことができました。

【 DV491 】 Economic Development Policy I : Applied Policy Analysis for Microeconomic Development

：開発経済政策I：ミクロ開発経済学における応用的政策分析

- 秋学期に学んだマクロ的な視点とは違って、教育・ヘルスケア・ジェンダー・労働などミクロな開発課題を学びます。共通の話題として、市場における需要と供給がどのように均衡するのかを扱いました。留学前に学部でミクロ経済学を履修していたことが大いに役立ち、途上国における諸問題への造詣をさらに深めることができました。

4. 直面した課題・問題等

留学期間を通じて、心身ともに健康で充実した日々を過ごしておりました。

5. 今後の課題・目標

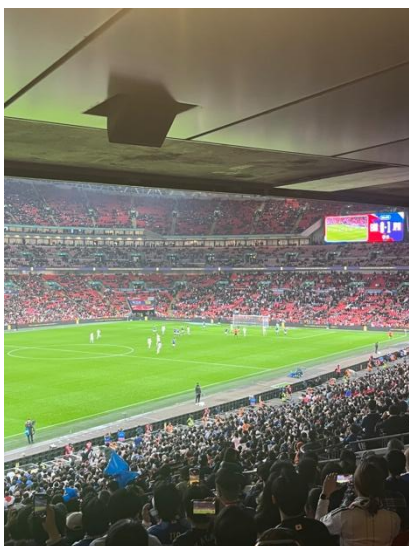
現在は帰国しているため、帰国後の目標になりますが、国際金融機関での就職に向けて、まずは数年間、民間企業で実務経験を積むことを計画しています。同時に、貴財団でのボ

ランティア活動や途上国への訪問を通じ、途上国現地の最新の情勢を常にキャッチアップしたいと思います。その後、これらの経験や大学院での学びを元に、国際金融機関で途上国の経済発展に寄与できるよう精進します。

6. その他特記事項

帰国してから数週間が経ち、留学期間を振り返りながらの報告となりました。あっという間の1年ではありましたが、ロンドンへ旅立った日を懐かしく思うと同時に、自身の成長も感じることができました。

最後になりますが、貴財団にご支援あってこそ、本留学を最後まで成し遂げることができました。カウンセラーの石山様を始め、関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



◀ サッカーの聖地ウェンブリースタジアムにて日本対イギリスの試合を観戦しました。イギリスから初めての白星を勝ち取ることができ、友人と大盛り上がりでした。

▶ フェアトレード・インターナショナルとのプロジェクトを共にした友人と、試験が終わった後にピクニックをしました。





◀寮の友人がパキスタン出身だったこともあり、ビリヤニ(日本で言う炊き込みご飯に近い)にハマりました。友人のおすすめは、シンディ・ビリヤニと呼ばれる、じゃがいもの入ったビリヤニです。この後、一緒にインド系スーパーに行ってビリヤニの素を購入。人生で初めてビリヤニを作りました。

▶掃除や荷造りを終え、退去するときの部屋の様子。この写真を見ると入居した時の高揚感と、退去した時の達成感が感じられます。

また、ロンドン市内でも立地が良いところに寮があったので、ロンドンを十分に楽しむことができました。

